

- 1 本書は『東アジア生活絵引』の1巻である。
- 2 本書は徐揚「姑蘇繁華図」の図幅から51の場面を切り取り、主題を示すタイトルを与え、それらに描かれた事物・行為に番号を付け、それらを表現する語をキャプションとして与え、また図全体を読み取り解説した。
- 3 底本としたのは清宮散佚国宝特集編輯委員会編『清宮散佚国宝特集』絵画卷（中華書局出版、2004年）に収録された「姑蘇繁華図」である。必要に応じて、遼寧省博物館・中国歴史博物館・蘇州市地方志編纂委員会編『盛世滋生図』（文物出版社、1986年）、巖麗娟編『清・徐揚《姑蘇繁華図》』（商務印書館〔香港〕、1988年）、蘇州市城建館・遼寧省博物館編『姑蘇繁華図』（文物出版社、1999年）の画像を参照した。
- 4 図の主題に基づいて以下の5章に編成した。各章の中は、①章の主題との関連性の大きさ、②「姑蘇繁華図」の描写の順序（蘇州西南の郊外から蘇州城へ、蘇州城の城壁に沿って南から北へ、さらに蘇州城西北部の閶門から郊外の虎丘へという順序）を総合的に勘案し、配列し、通し番号を付けた。
 - I 水のある風景
 - II 村の風景
 - III 賑わう街並み
 - IV 喜びと楽しみ
 - V 権力の表象
- 5 本書において使用した図は、原図から必要に応じて切り取ったものであり、1つの図とそれに対するキャプション・読み取り解説を見開き2頁に収録した。各図は拡大もしくは縮小されており、原図の大きさと一致しない。
- 6 各図の中の事物・行為に付した番号は、基本的に左から右へ、上から下へと付けた。図によっては、主題（主題に近い事物から周辺へ）、遠近（画面の近いところから遠方へ）、時間（描かれた図像内容の時間の展開）などの要素を加味した。
- 7 描かれた事物・行為の総称の番号に○を、また行為を示す語には番号に□をそれぞれ付けた。
- 8 各事物・行為に付ける語は、以下の基準に従った。
 - (1) 原則として事物単体および個別行為にキャプションを付ける。
 - (2) 名称は現代日本語を基本とし、必要に応じて括弧書きで中国語の表現・表記を併載した。中国語は図像が描かれた18世紀江南地方の表現・表記を優先させ、当時の表現が確認できない場合は、現代中国語で付けた。
 - (3) 所作・行為のキャプションは日本語、中国語ともに現代語で付けた。
 - (4) 推測・推定・想像によるキャプションはできるだけ避け、そのような内容は読み取り解説で記述した。
 - (5) キャプションの施設名、制度名などの固有名詞には、「」を付けて記した。
 - (6) 画像の内容としての文字は読み解き、事物の名称の後に「」を付けて記した。
- 9 本書の編纂は共同研究の方式で行われ、研究参加者全員で検討し、完成させた。各図の読み取り解説に関しては、原案を執筆した者の個性が残されているので、各文末に括弧書きで執筆担当者の名字を記載した。
- 10 本書編纂過程で獲得した知見は、各人が解題と考察編として記述した。
- 11 巻末に、本書の編纂に際して参考とした文献を、参考文献目録として収録した。
- 12 巻末には、キャプションとして付けた語彙の五十音順索引を付した。